

一般会計の財務諸表を家計に例えると？

財務諸表には4つの表がありますが、それぞれの表を家計に例えると、下記の内容を表すものです。

貸借対照表 (バランスシート)	土地や家屋、自家用車、電化製品などの資産や、住宅ローンやクレジットカードの支払いなどの負債を示したものを。資産から負債を引いたものを純資産と呼んでいます。 なお、土地は時間が経っても価値は減りませんが、家屋や自家用車などは、時間が経つに連れてその価値が減っていきます。
行政コスト計算書	食費・光熱費や子どもの塾代などの日常的にかかる経費などを示したものを。自家用車の購入費など、資産の形成に結び付く支出はこの表には含まれません。
純資産変動計算書	家庭の資産が、1年間どのような内容で増減したかを示したものを。
キャッシュ・フロー計算書	いわゆる家計簿。1年間の家庭の現金の収支状況を、日常生活に係る収支、資産形成に係る収支、ローンに係る収支の3つに分けて示したものを。

令和3年度末時点の石狩市民一人あたりの財務諸表の要約版と、それをイメージしやすい家計に例えた状況は、下記のとおりとなります。

貸借対照表 (バランスシート)


(単位: 千円)

資産の部		負債の部	
1.有形・無形固定資産		1.固定負債	
(1)事業用資産	530	(1)地方債	486
(2)インフラ資産	475	(2)退職手当引当金	29
(3)物品	4	(3)その他	0
(4)無形固定資産	0		
2.投資等その他の資産		2.流動負債	
(1)投資及び出資金	233	(1)翌年度償還予定地方債	45
(2)長期貸付金	0	(2)その他	11
(3)基金	51		
(4)その他	10	負債合計	571
3.流動資産			
(1)財政調整基金	10	純資産の部	
(2)減債基金	7	純資産合計	767
(3)現金預金	17		
(4)未収金	1		
資産合計	1,338	負債及び純資産の合計	1,338

家計に例えると・・・

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
1.有形・無形固定資産		1.固定負債	
(1)家屋	530	(1)～(3)住宅ローンなど借金	515
(2)土地	475		
(3)自家用車・電化製品など	4		
2.投資等その他の資産		2.流動負債	
(1)～(2)株券、敷金など	233	(1)ローンの次年度支払分	45
(3)定期預金	51	(2)その他	11
(4)その他	10	負債合計	571
3.流動資産		純資産の部	
(1)～(3)現金・普通預金など	34	純資産合計	767
(4)立て替えているお金	1		
資産合計	1,338	負債及び純資産の合計	1,338




ワンポイント解説

Q:「固定」と「流動」は何が違うの？

A:固定資産は1年を超えて保有や使用されるもので、流動資産は1年以内に消費や使用されるものだよ。

固定負債は支払期限が1年を超えるもので、流動負債は支払期限が1年以内のものだよ。



このように見ると、石狩市民は一人あたり133万8千円の資産と、57万1千円の負債を抱えており、差し引き76万7千円の純資産を保有していることが分かります。

しかし、1年以内の資産の増減に着目すると、流動資産が3万5千円であるのに対し、流動負債が5万6千円となっています。短期的には資産よりも負債が多くて、支払いに窮する状態に陥っていることが分かります。

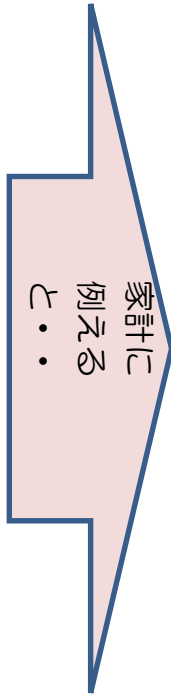
家計に例えると、不動産や自動車の価値、預貯金など資産の合計が住宅ローンの残額等の負債の合計を超えてはいますが、毎月のクレジットカードの引き落としの残高の用意がままならない状況です。

中長期的に安定した財政運営を続けるには、流動資産と流動負債のバランスを取ることも重要です。

行政コスト計算書

(単位:千円)


経常費用	
1.人にかかるコスト	
(1)人件費	62
(2)手当引当金繰入等	5
2.物にかかるコスト	
(1)物件費	137
(2)減価償却費	45
(3)維持補修費	7
(4)その他	0
3.移転支出的なコスト	
(1)補助金等	154
(2)社会保障給付	88
(3)他会計への繰出金	34
(4)その他	2
4.その他のコスト	
(1)公債費(利息)等	6
経常費用	540
使用料・手数料等経常収益	18
純経常行政コスト (経常費用-経常収益)	522
臨時損失	2
臨時利益	0
純行政コスト	524



(単位:千円)

生活費等	
1.人にかかるコスト	
(1)家族の食費	62
(2)将来の冠婚葬祭の積立金	5
2.物にかかるコスト	
(1)光熱水費、日用品費	137
(2)自家用車等の価値低下分	45
(3)家の簡易な補修費	7
3.移転支出的なコスト	
(1)子どもの塾代など	154
(2)家族の医療費	88
(3)仕送り代	34
(4)その他	2
4.その他のコスト	
(1)借金の金利返済など	6
生活費等	540
副業の収入	18
実際の生活費等	522
臨時的な資産の売却損など	2
臨時的な資産の売却益など	0
最終的な生活費等	524

この表から分かることは、市の行政サービスを維持するために、石狩市民一人当たり、年間52万4千円の費用負担が必要であることです。また、今後も社会保障給付費の増加や、公共施設の老朽化に伴う維持管理経費の増加が予想されているため、行政コストの上昇をいかに抑えるかが、重要な課題となっています。




ワンポイント解説

Q: 「経常」と「臨時」はどう区別しているの?

A: 毎年発生するものは「経常」、発生するかはっきりしていないものは「臨時」だよ。

Q: 大きい建物を建てた年は、行政コストがドンって大きくなるの?

A: 建物は建てた金額ではなく、減価償却費で計算されるから、そこまで大きな影響はないよ。その代わりに、耐用年数の期間中は、ずっとコストとして計算され続けるよ。



純資産変動計算書

家計に例えると・・・

(単位:千円)		(単位:千円)	
期首純資産残高	756	一年の初めの純資産額	756
1.財源変動		1.新たな資産の動き	
(1)財源の用途		(1)家計の用途	
純経常行政コスト	△ 524	最終的な生活費等	△ 524
(2)財源の調達		(2)家計の調達	
税金等	342	自営業の収入	342
国県等補助金	190	パート・アルバイトの収入	190
2.資産形成充当財源変動		2.既に生じていた資産に関する変更	
(1)資産評価差額	0	該当なし	
(2)無償所管換等	0		
3.その他の純資産の変動	3	3.その他の純資産の変動	3
期末純資産残高(期首+(1~3))	767	一年の終わりの純資産額	767

負債が将来世代の負担であるのに対し、純資産は過去に市民が形成してきたものの積み上げとなっています。

令和3年度は行政コストより財源の方が大きかったため、純資産は前年度よりプラスになりました。これは、1年間の行政の運営コストが、全額その年度の収入で賄われており、資産の目減りは生じなかったことを表しています。

家計に例えると、生活費全体を仕事の収入で賄えて、いくらかは預貯金等が増えた状態です。

令和3年度末時点で、石狩市民一人あたり、76万7千円の純資産を有しています。



ワンポイント解説

Q：純資産がある限りは、お金を自由に使えるの？

A：自治体の純資産の中には、道路や公園といった換金するのが現実的に難しいものも含まれているから、全額を使えるわけではないよ。



資金収支計算書

家計に例えると・・・

(単位:千円)		(単位:千円)	
1.業務活動収支	48	1.日常生活に係る収支	48
(1)業務支出	495	(1)生活費	495
(2)業務収入	543	(2)仕事の収入	543
(3)臨時支出	0		
(4)臨時収入	0		
2.投資活動収支	△ 41	2.資産形成に係る収支	△ 41
(1)投資活動支出	60	(1)定期預金積立金など	60
(2)投資活動収入	19	(2)保険解約金収入など	19
3.財務活動収支	△ 6	3.ローンに係る収支	△ 6
(1)財務活動支出	48	(1)ローンの返済金	48
(2)財務活動収入	42	(2)ローンの借入金	42
4.歳計外現金増減額	0	4.へそくりの増減額(該当なし)	0
当期収支	1	一年間の家計の増減	1
期首資金残高	16	一年の始まりの預貯金額	16
期末資金残高	17	一年の終わりの預貯金額	17

資金収支計算書は、一年間の現金の出入りの状況を表すもので、自治体の家計簿に相当するものです。令和3年度の収支はプラスとなり、翌年度への持ち越せる預貯金が増えることとなりました。

業務活動収支は、日々の行政サービスを提供する上での収入と支出が記載されています。投資活動収支には、建物を建てたり基金を積み立てたりした、資産の形成にかかわる収入と支出が記載されています。財務活動収支は、自治体の借金と返済に係る費用などが記載されています。

3つの収支からは、業務活動で確保した資金を、投資活動や財務活動に回しているという構図が見て取れます。



ワンポイント解説

Q：投資活動収支や財務活動収支がマイナスだけ良いの？

A：投資活動収支がマイナスであることは、設備投資を積極的に行っていることを指すよ。財務活動収支がマイナスであることは、借金の返済額が借入額より大きくて、市の借金の総額が減少したことを指すよ。